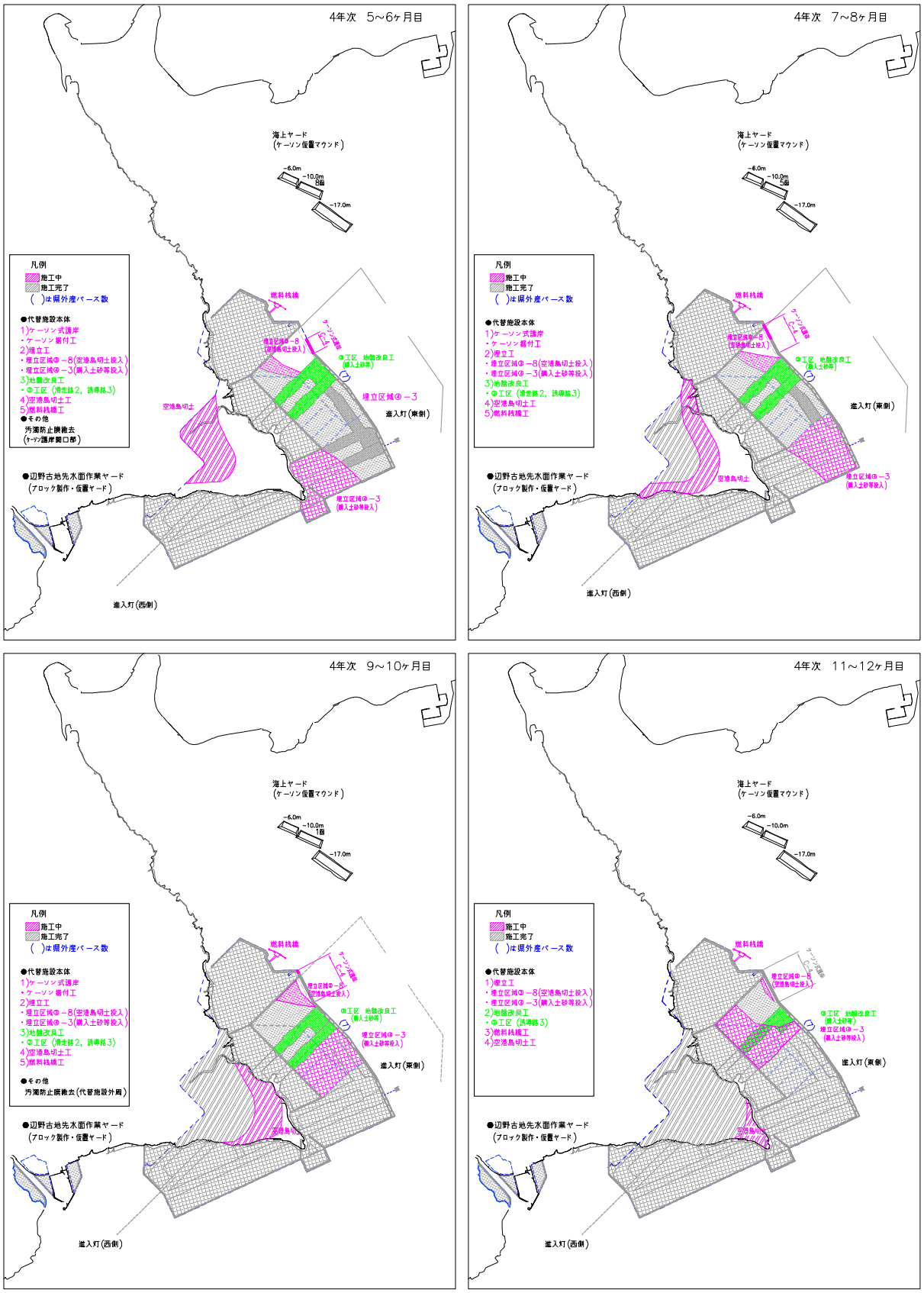

図-2.4.2.3(6)　　海上工事進捗図

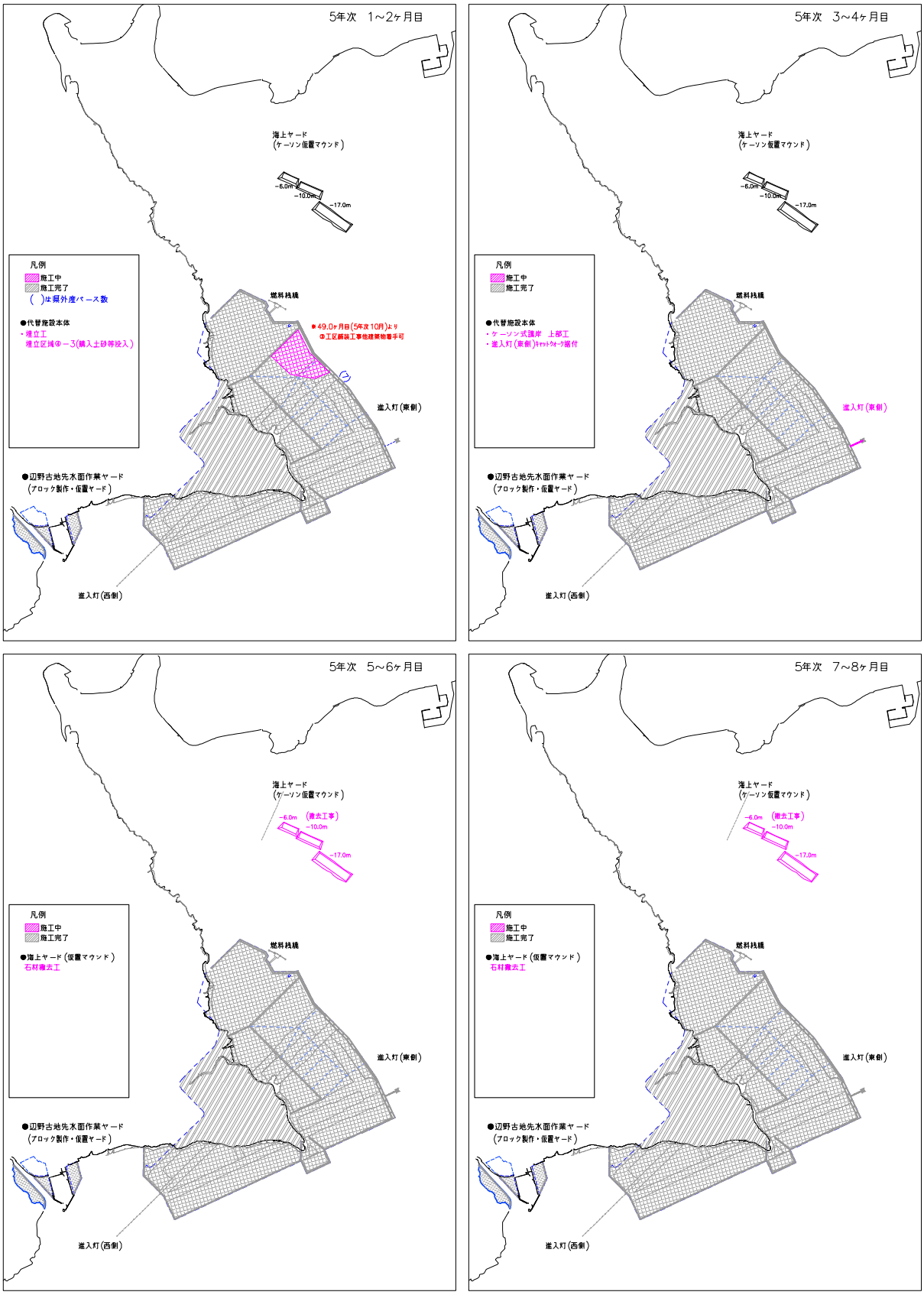

図-2.4.2.3(7)　　海上工事進捗図

(1) 代替施設本体

1) 護岸工事

護岸の形式としては、水深や海象条件等に応じてケーソン式護岸、傾斜堤護岸及び二重締切矢板式護岸を計画しています。

①ケーソン式護岸は、比較的水深の深い箇所（東側の南寄り、最大水深：D.L.-30.0m程度）に用います。この護岸形式は、水深が深い場所における施工に適しており、海底面の改変面積を極力減じることのできる護岸形式（直立式）です。

②傾斜堤護岸は、比較的水深の浅い箇所（西側、南側、北側、水深：D.L.-1.0m～5.0m程度）に用います。水深が浅く、海上施工が不可能な箇所においても、この護岸形式は、陸上からの施工が可能です。

③二重締切矢板式護岸は、中間的な水深の箇所（東側の北寄り、水深：D.L.-5.0m～10.0m程度）に用います。海上での施工が可能であり、また、海底面の改変面積を縮小できる構造形式です。

各護岸の断面は図-2.4.2.5～図-2.4.2.7に示すとおりです。

なお、護岸基礎マウンド構築に伴う海底面の改変範囲（消波ブロック設置範囲を含む）は、図-2.4.2.4に示す範囲であり、埋立部を含む面積は約165haとなります。

また、護岸の構造については、サンゴの着生しやすい構造を今後の実施設計において検討することとしています。

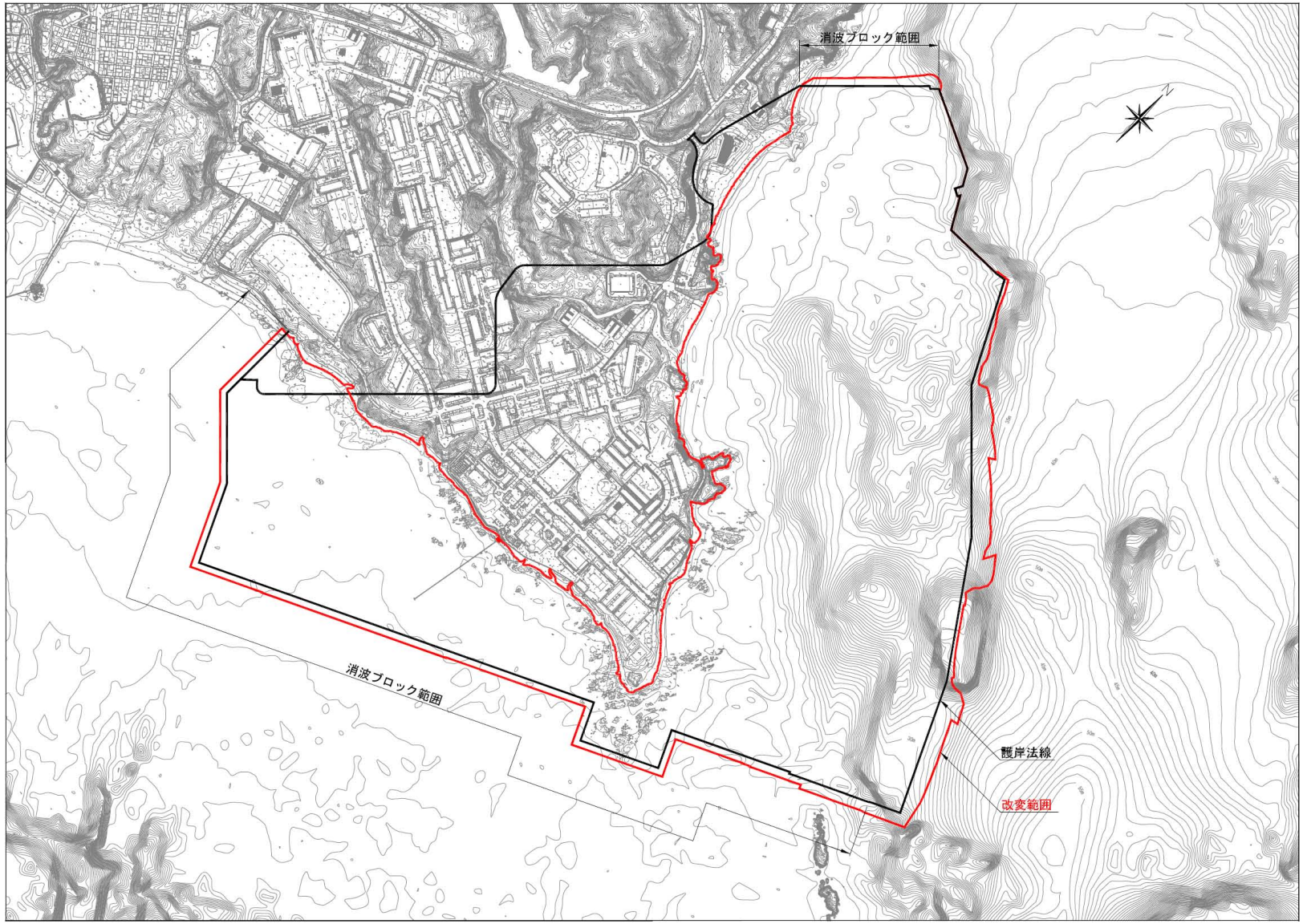

図-2.4.2.4　海底改変範囲図

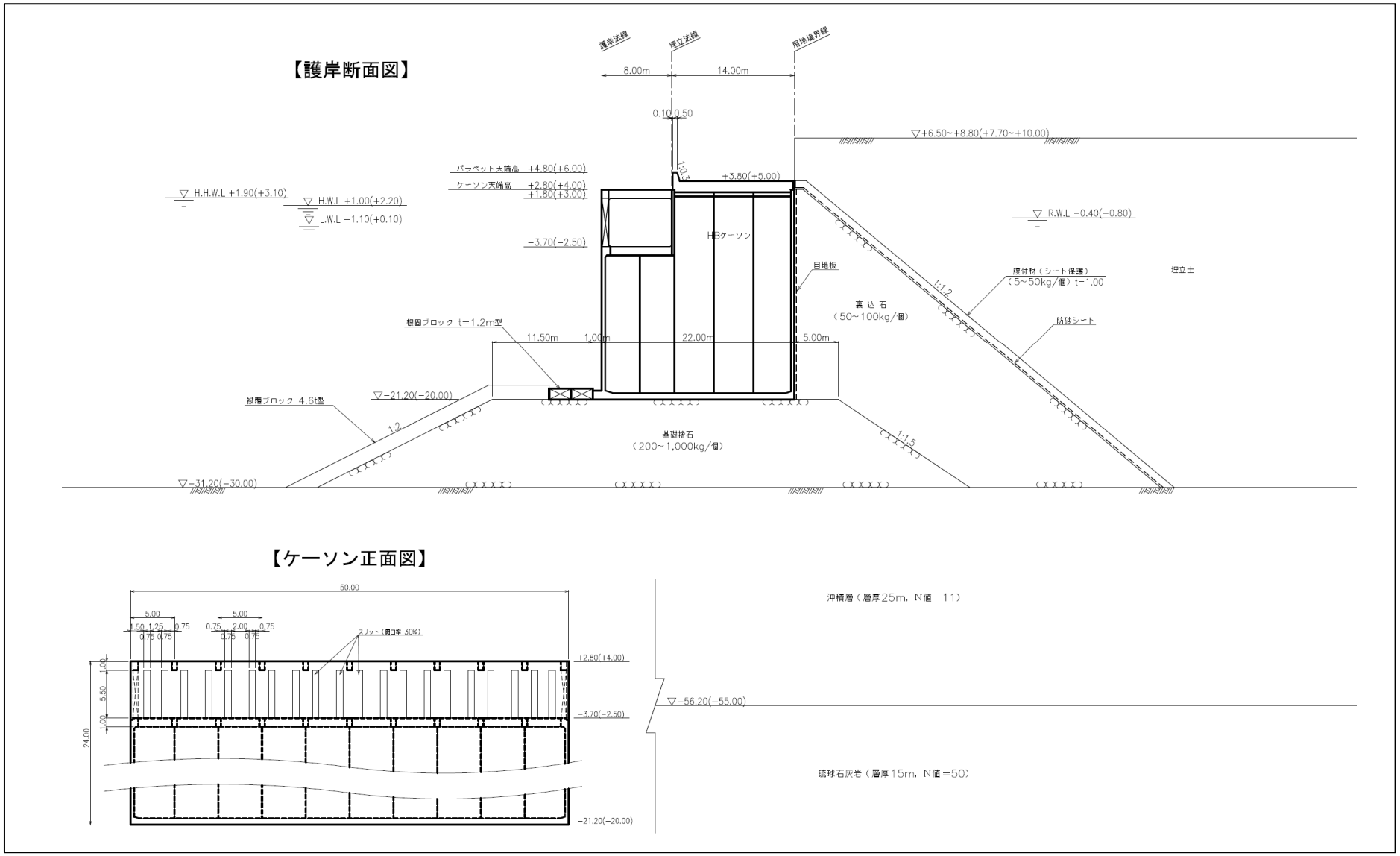

図-2.4.2.5(1)　　代替施設本体のケーソン式護岸断面図及びケーソン正面図（大水深区間）

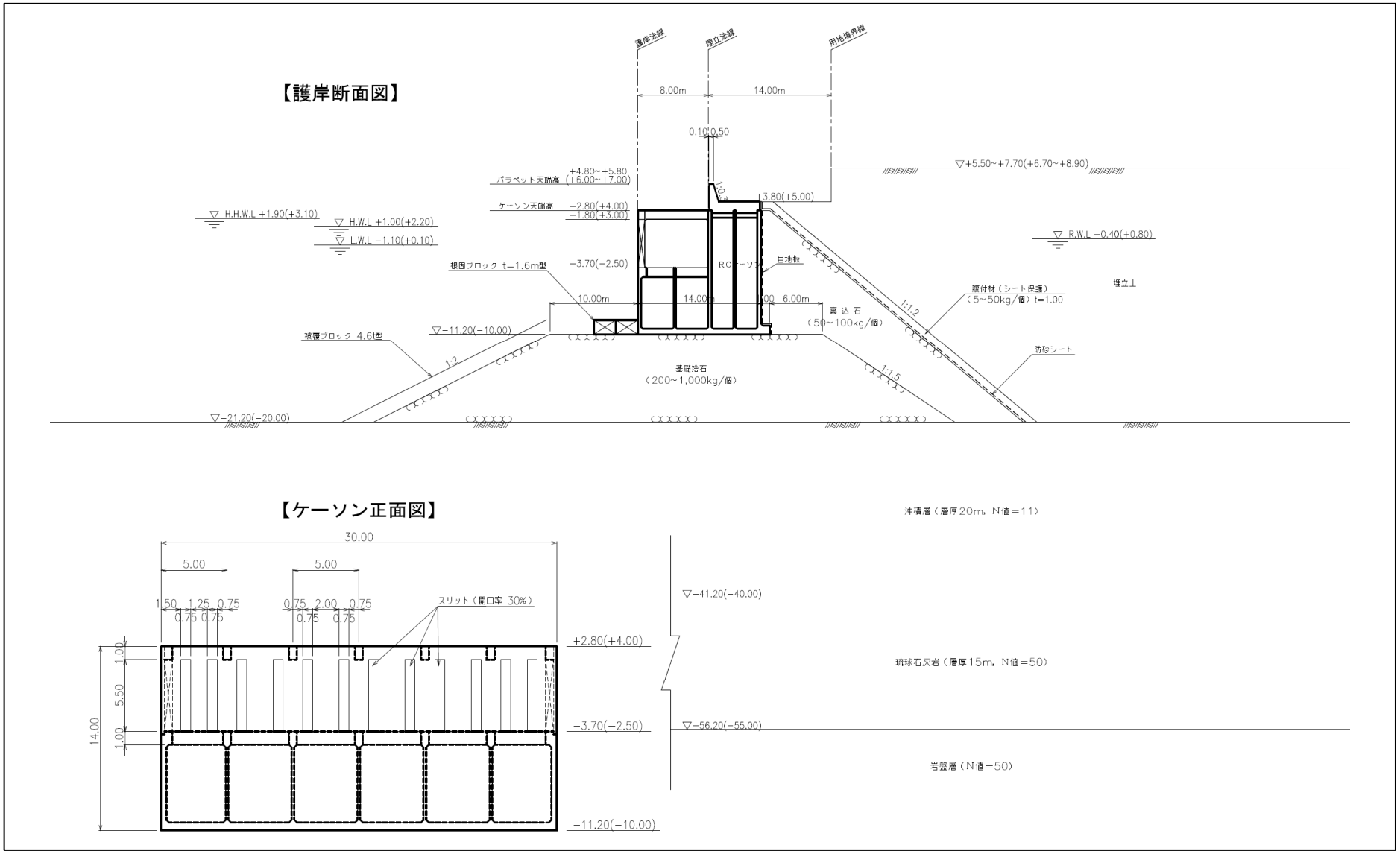

図-2.4.2.5(2)　　代替施設本体のケーソン式護岸断面図及びケーソン正面図（中水深区間）

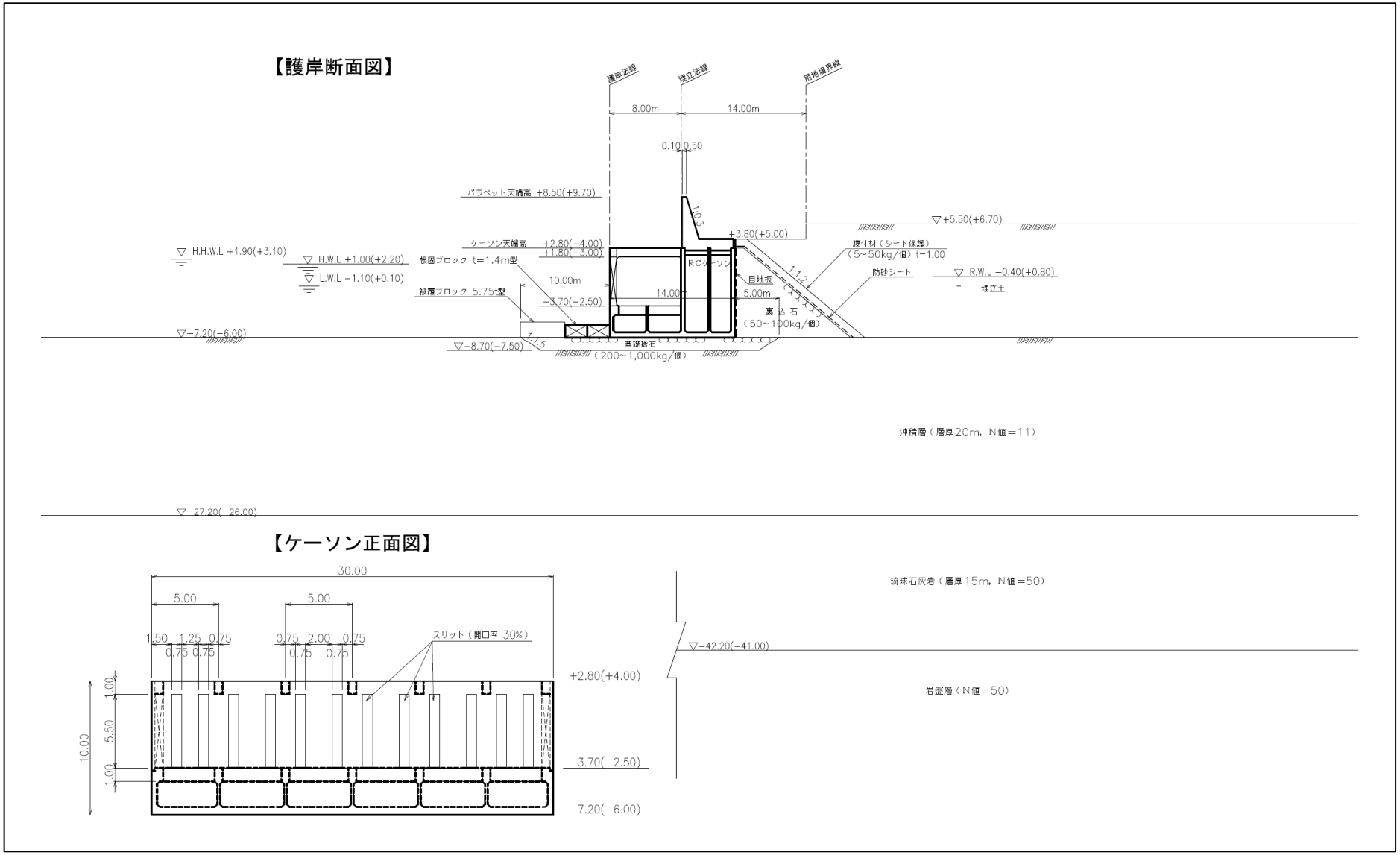

図-2.4.2.5(3)　　代替施設本体のケーソン式護岸断面図及びケーソン正面図（小水深区間）

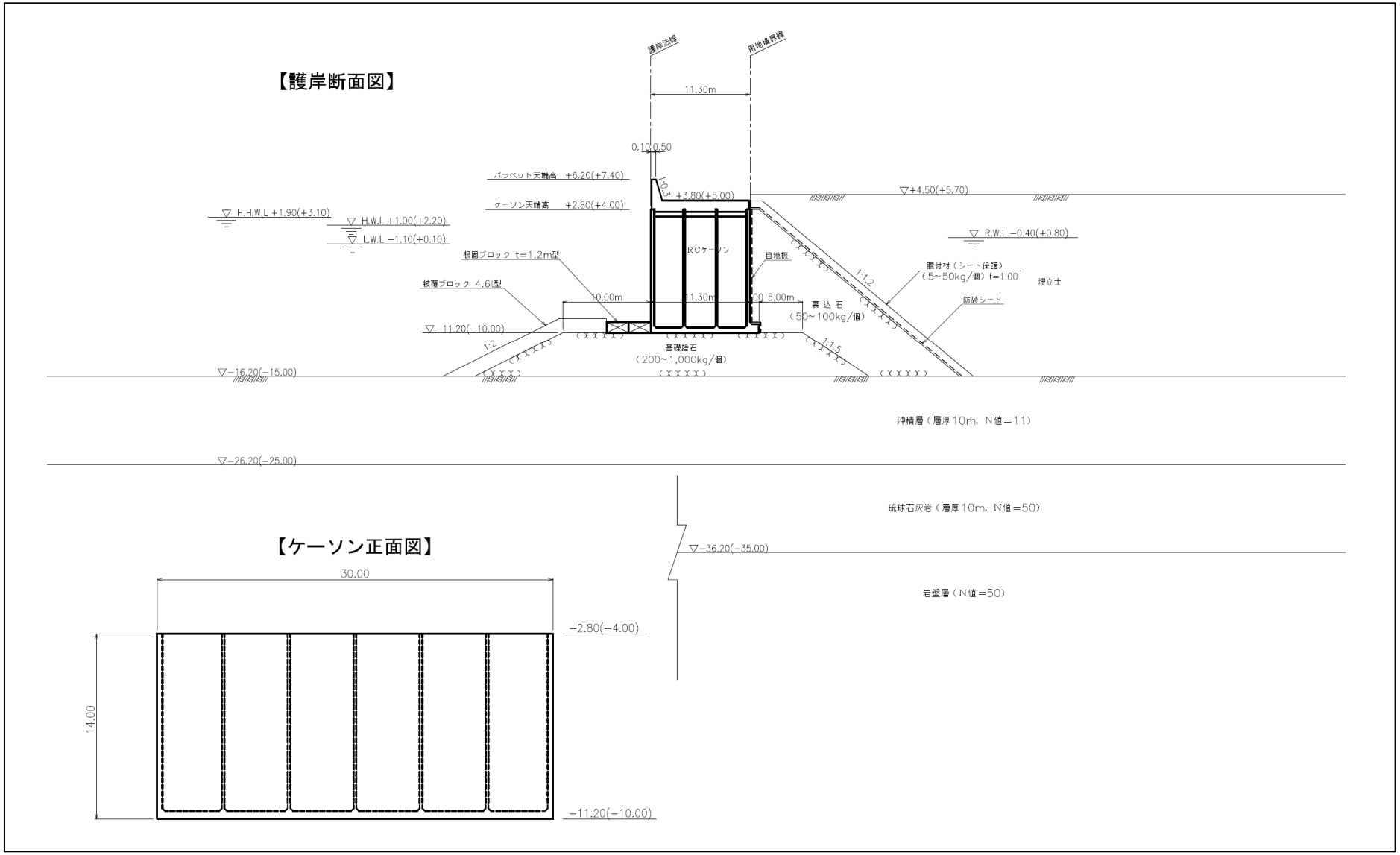

図-2.4.2.5(4)　　代替施設本体のケーソン式護岸断面図及びケーソン正面図（隅角部）

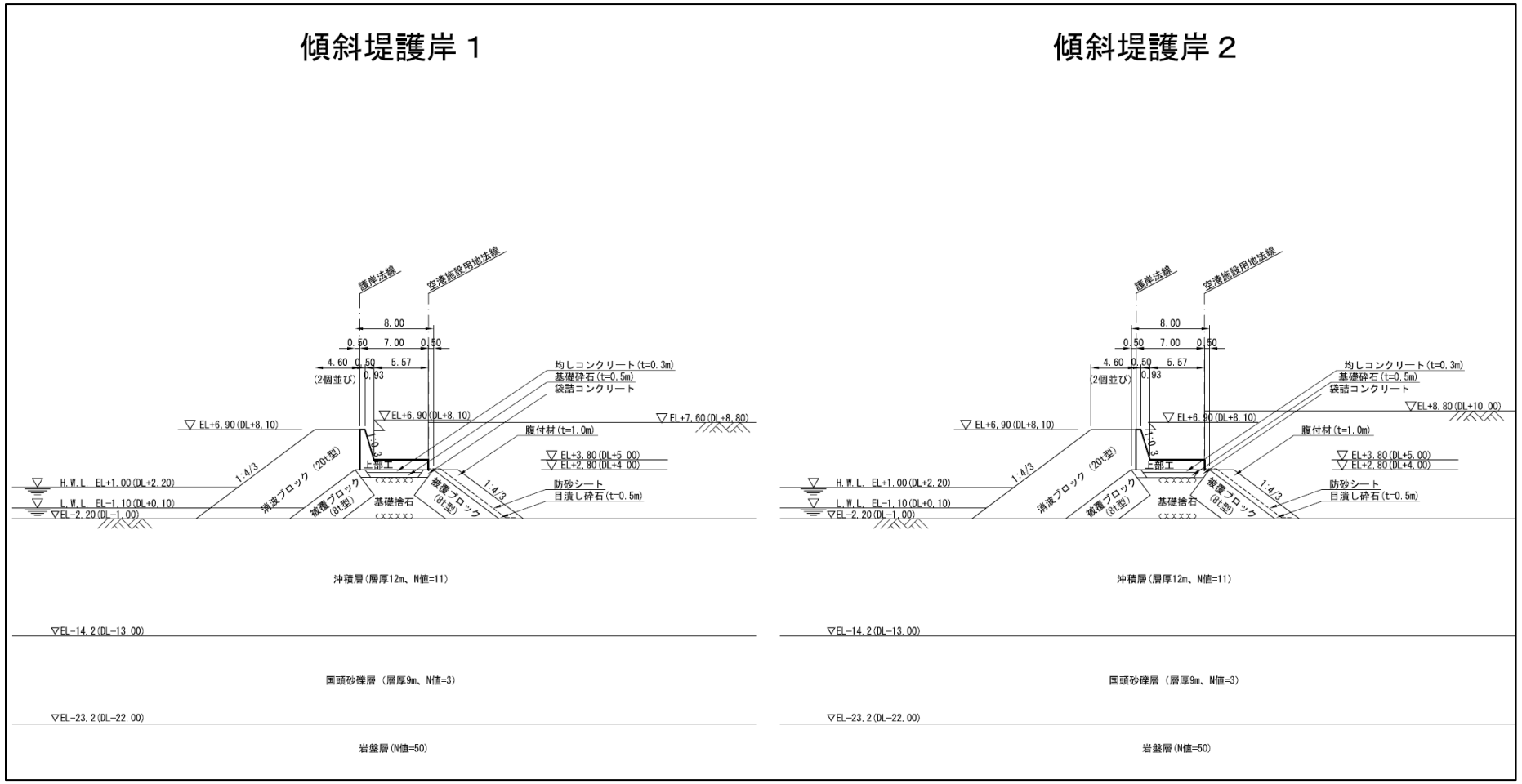

図-2.4.2.6(1)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

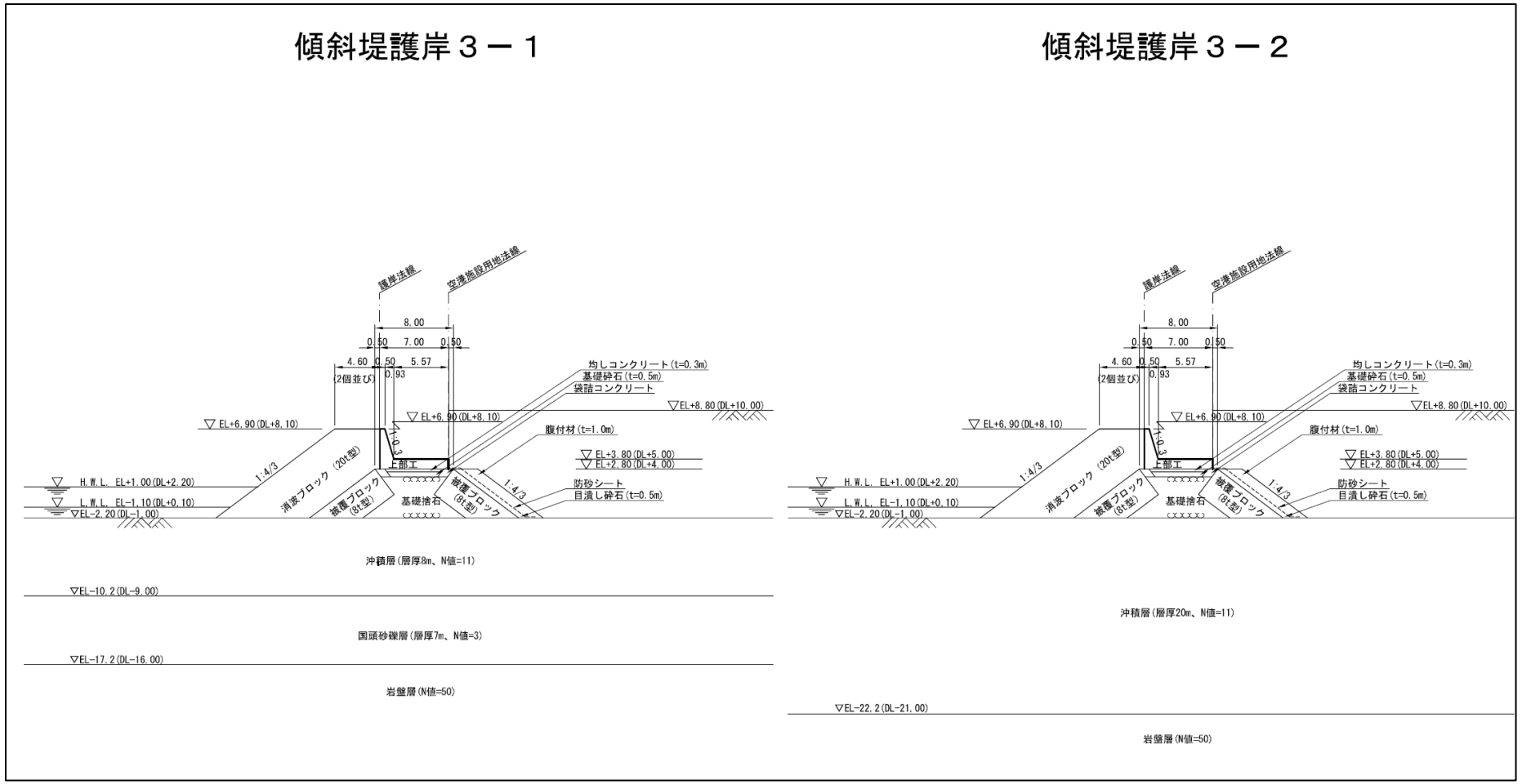

図-2.4.2.6(2)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

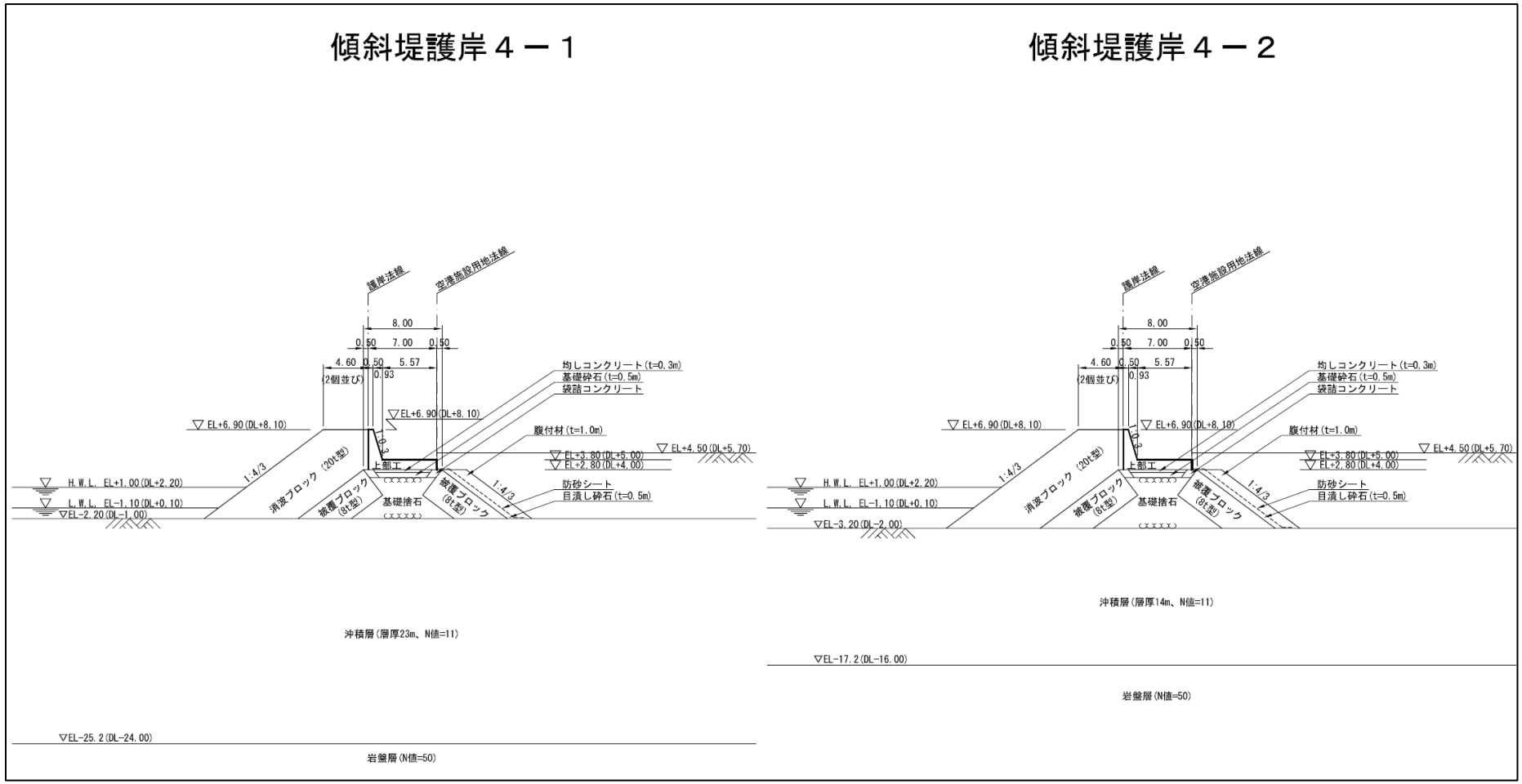

図-2.4.2.6(3)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

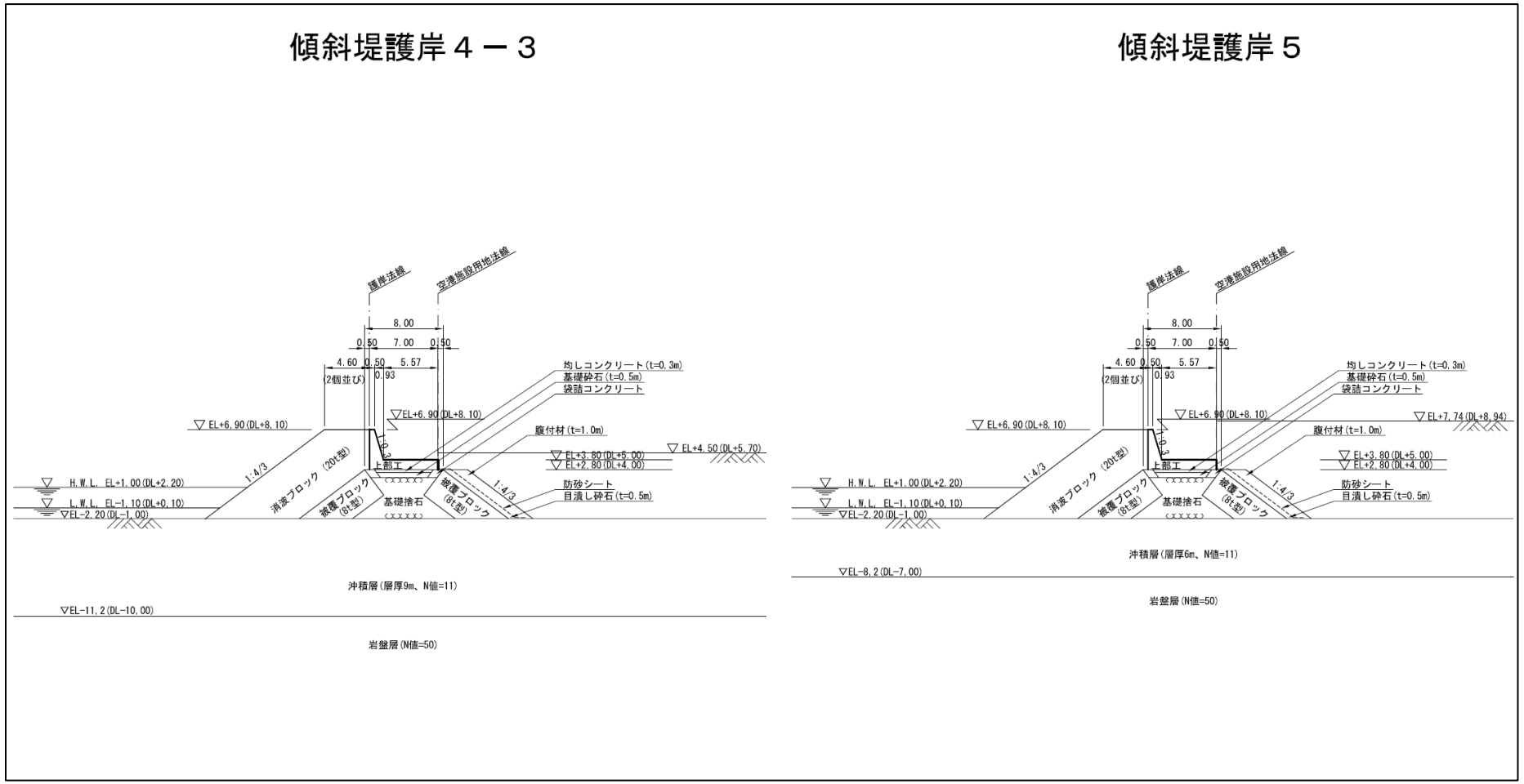

図-2.4.2.6(4)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

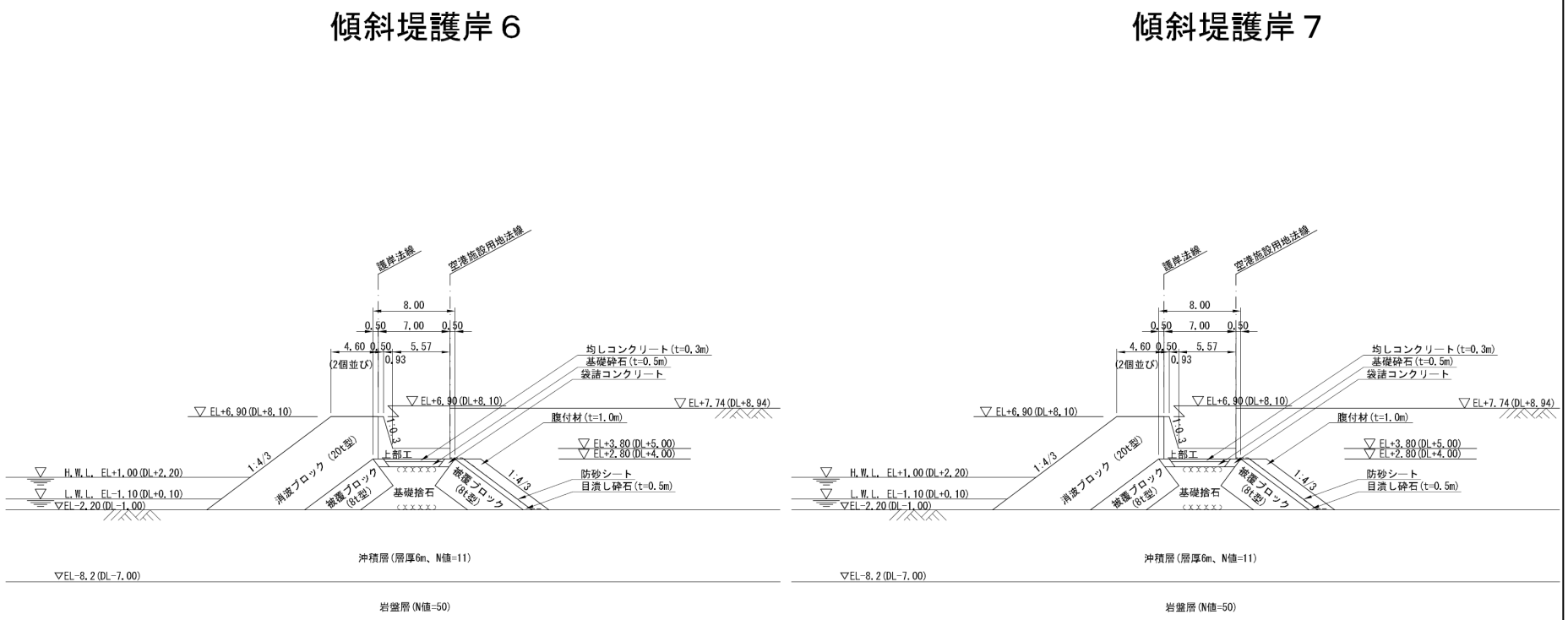

図-2.4.2.6(5)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

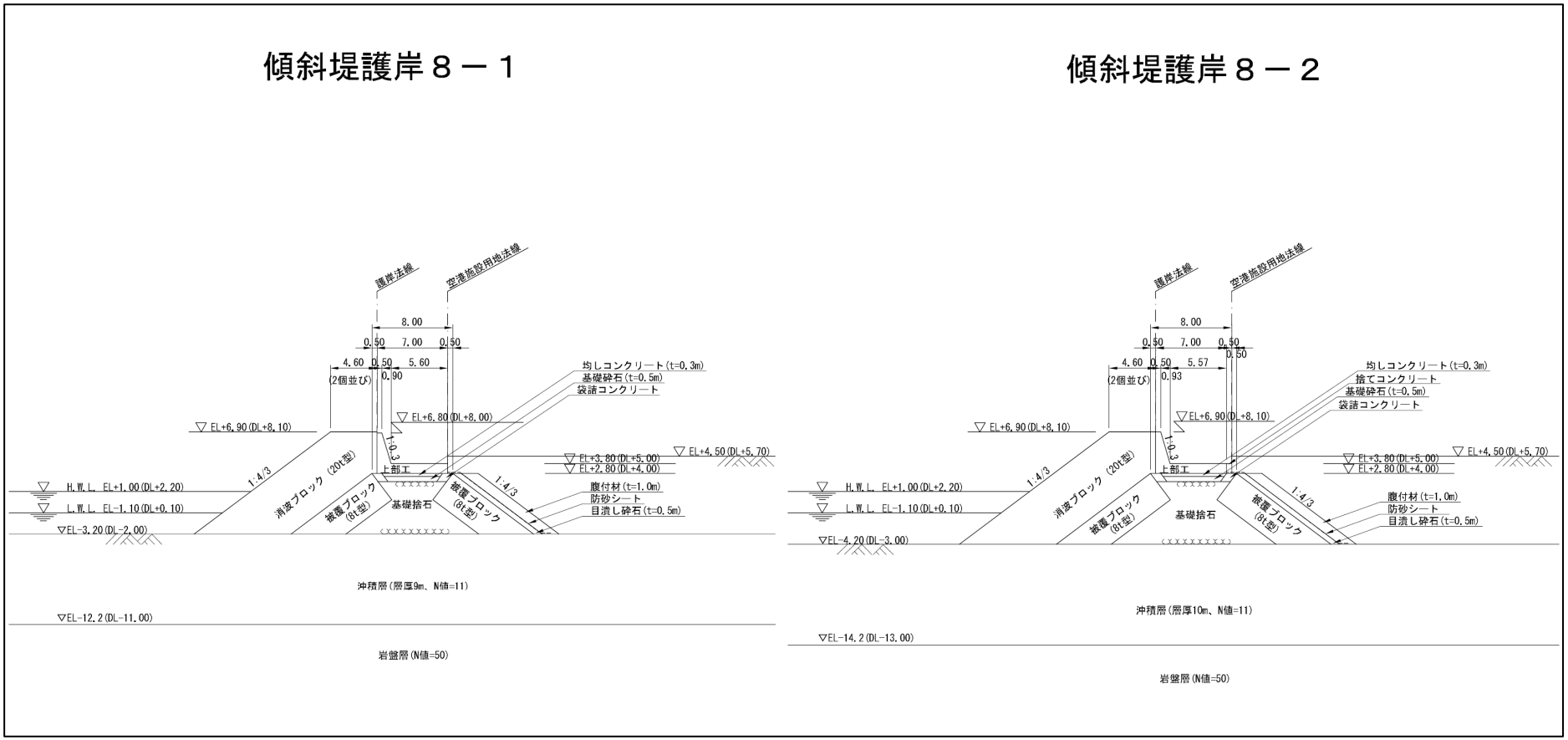

図-2.4.2.6(6)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

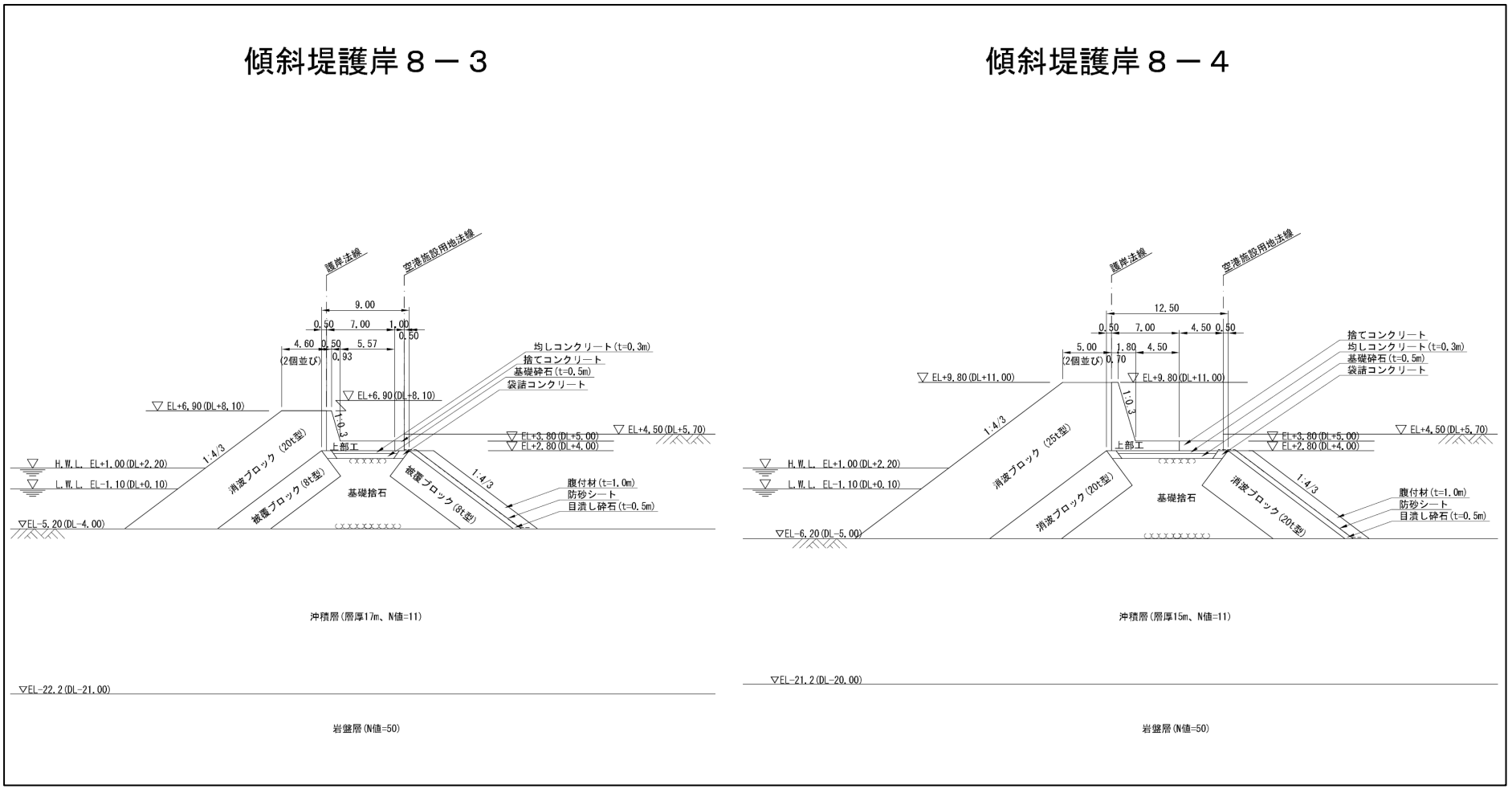

図-2.4.2.6(7)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

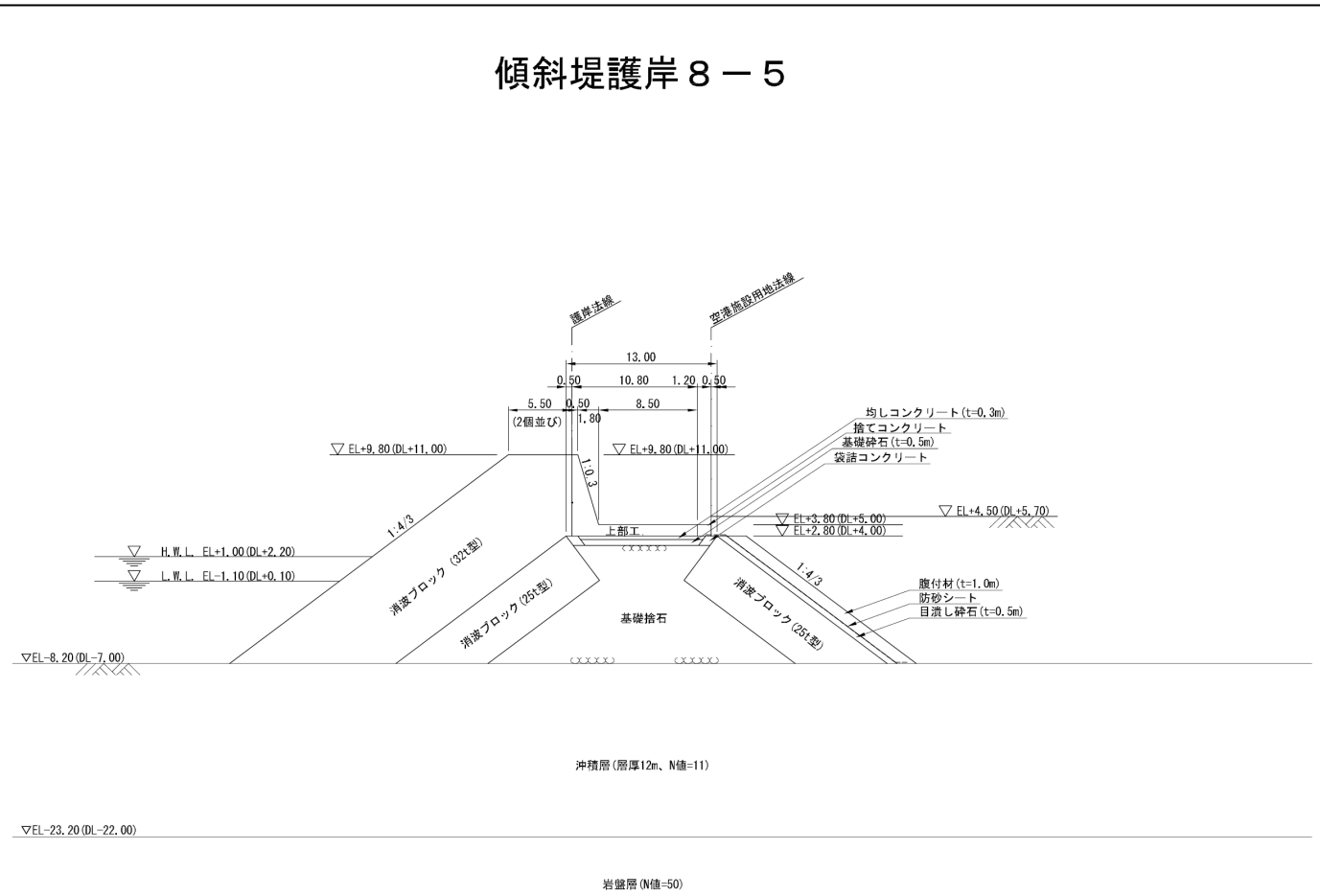

図-2.4.2.6(8)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

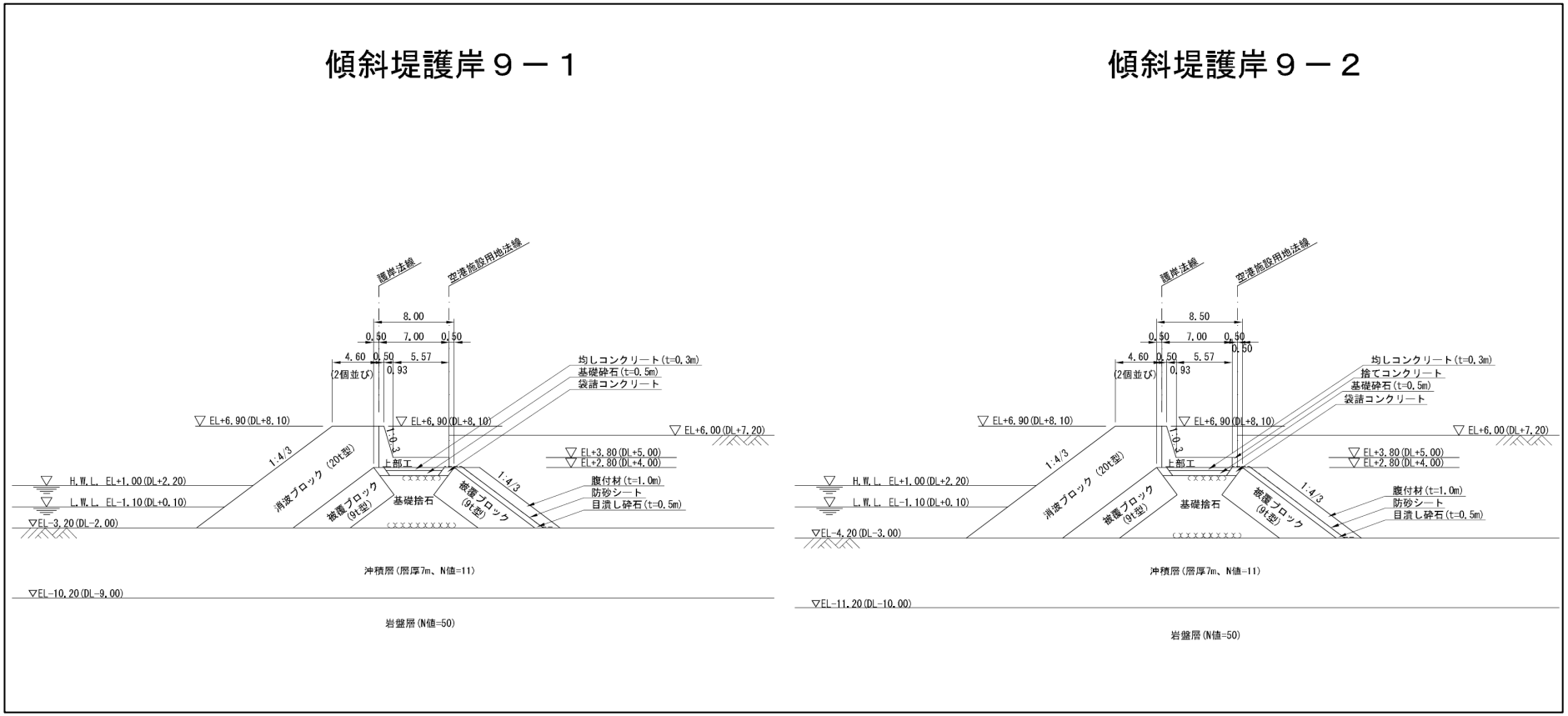

図-2.4.2.6(9)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

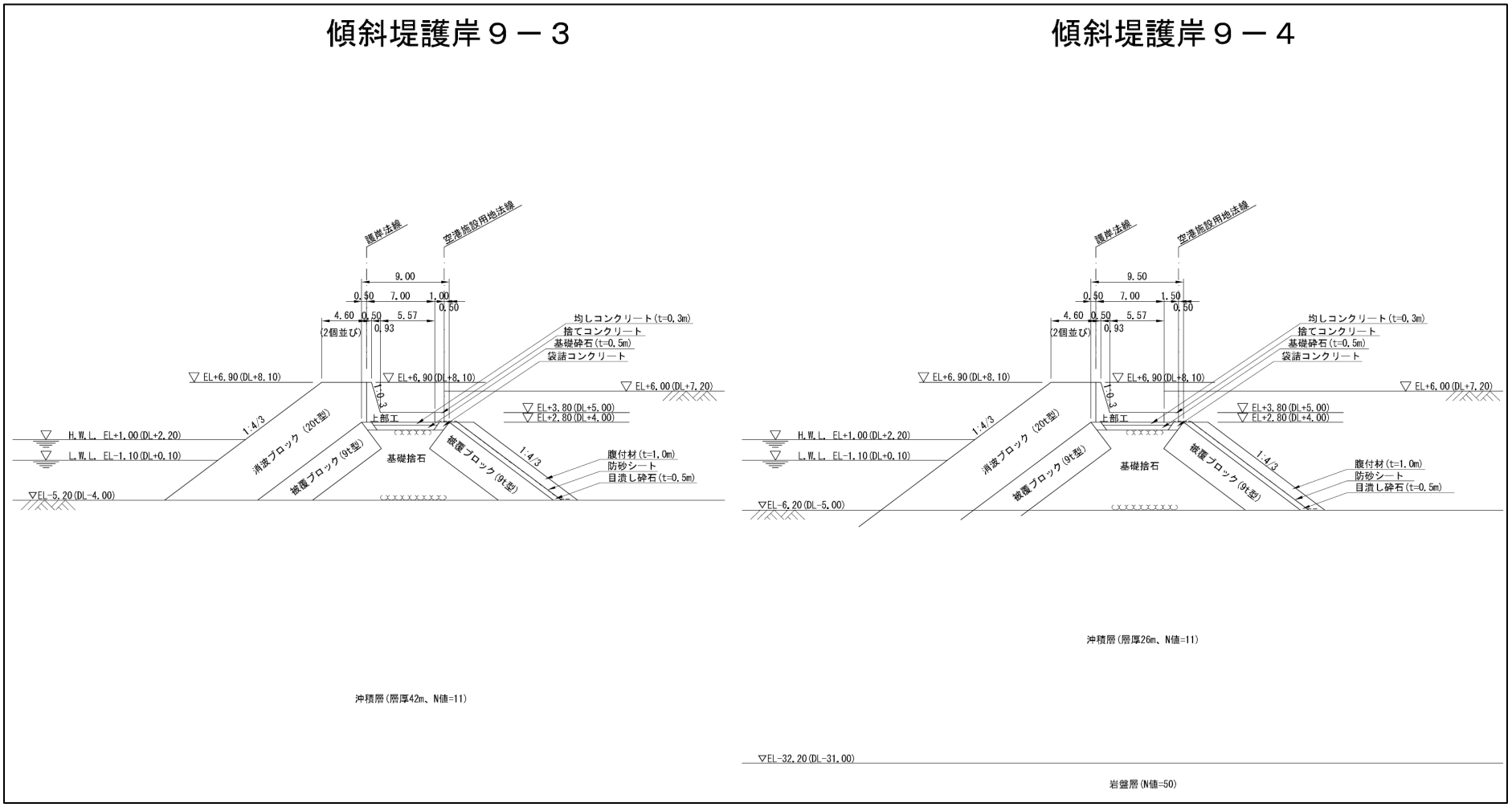

図-2.4.2.6(10)　　代替施設本体の傾斜堤護岸断面図

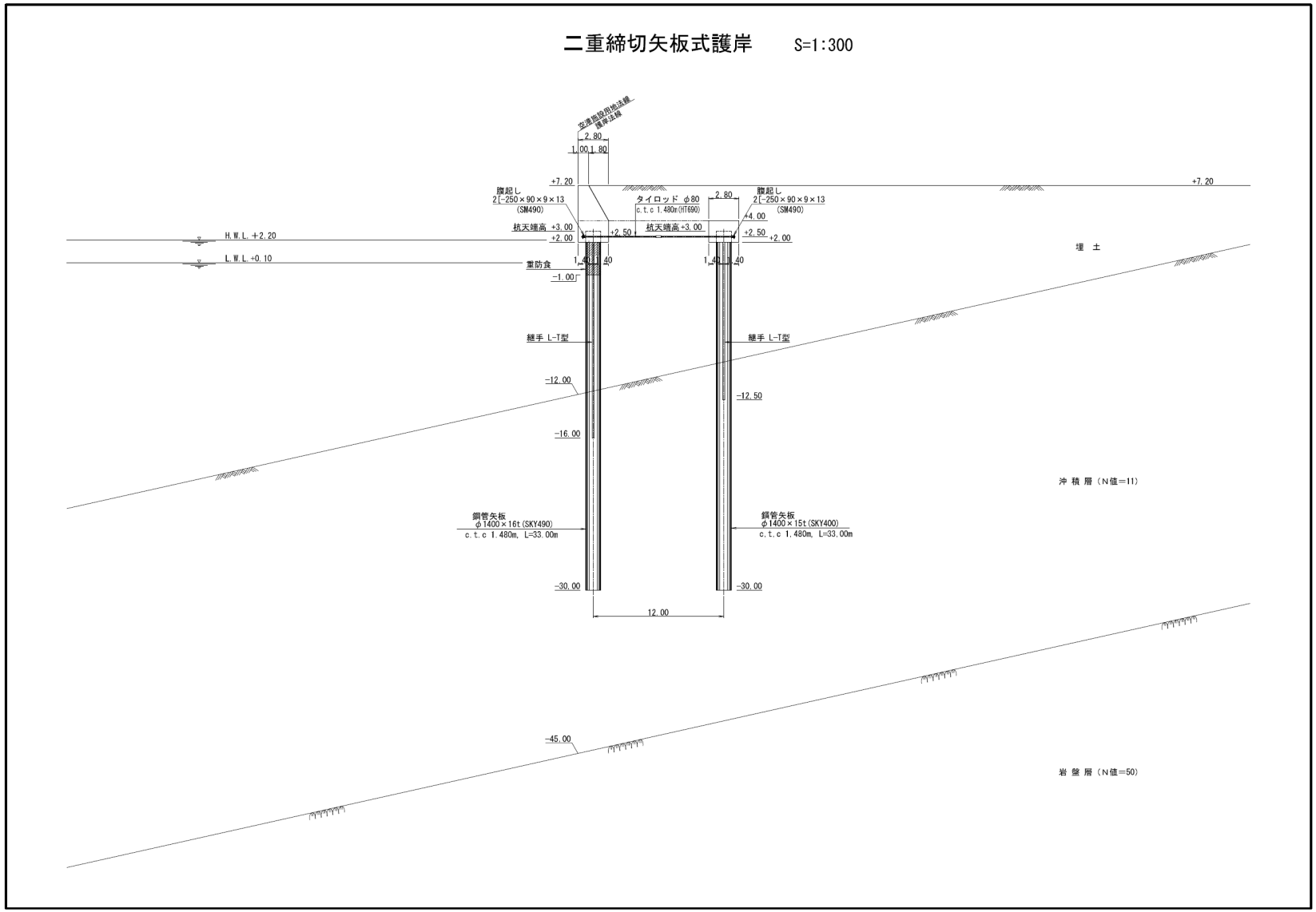

図-2.4.2.7　　代替施設本体の二重締切矢板式護岸断面図